

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話:070-1503-6401/044-988-0004
<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>
 第135号

多摩丘陵に残る
 義経の面影 - 8

古沢の九郎明神社と義経 (その2)

麻生観光協会理事 麻生歴史観光ガイドの会名誉会長 松本良樹

少し前座が冗長になりましたがこの『前九年』『後三年の役』で武蔵七党と言われる武士団の中でも最大の横山党が活躍しました。この横山党の中に『古澤(コザリ)』という武士がいて、大いに活躍したとのこと。また、二枚橋での橋の修復を終えた義経主従は黄瀬川へ行く途中この古澤の地で一泊したとの伝承もあり、謝礼に脇差と鉄扇を置いて行ったと、伝説としてこの地に残っています。この謝礼の品が、何時の頃まであったかは不明です。源九郎義経の名を拝したこの神社こそが古沢の鎮守様で、九郎明神社といわれる神社です。

黄瀬川で涙の対面を果たした義経は、どうやって平氏を倒すか日夜考えていたと思われます。なんとしても平家の様子を知りたくて、この笹子姫に何度もお会いし会話を積んでいたのではないのでしょうか。

ここで、武蔵七党で最大の党として君臨していた横山党について触れておきたいと思います。惟宗惟亮(コムネノタカス)により平安中期に書かれた『政事要略』によれば、承平元年(931)陽成天皇の私牧を国家が直営する勅使牧にした際に、京都より散位 小野諸興(トヨキ)を別当(馬の牧場を管理する役目)にして小野牧という馬の生産地に赴任してきたとされています。小野牧の場所の特定は難しいのですが、毎年40匹の貢馬をさせることにしたとありますので、この地の由比、小川、石川の牧が10匹。恐らく小野牧と一口に言っても、広大な一つにまとまった敷地を牧場にはしていたのではなく、小さな牧場を複数持っていたのではないかと想像されます。

さて、小野諸興はその姓からして『小野』という地に住んでいた多摩の有力な土豪であると考えられます。その場所は府中市本宿の小野神社周辺という説と、多摩市一の宮の小野神社周辺という説がありますが、小野牧が多摩川右岸であるので、後者の地が本拠地ではないかと想像できます。

丁度この頃、関東では将門の乱がおこり、『本朝世紀』によると、小野諸興は天慶2年(939)6月に諸興を始めとして数名が将門を追討する押領使(軍事を司る地方官で、その土地に根を張った有力者)に任命されました。諸興は武蔵権介でもありました。(仮の官ではあるが武蔵国のナンバーツー)俵藤太こと藤原秀郷や平貞盛と一緒に戦ったと思いますが、どんな活躍をしたかは不明です。

小野氏といえば、遣隋使:小野妹子、冥界での閻魔大王 補佐役:小野篁(タムラ)、小野春風(鎮守府将軍)、小野道風(書家三蹟)、小野小町(美女歌人)など、学者・文人・文官など多様な人材を輩出した名族ですね。

京都より小野孝泰(隆泰)が延長2年(924)武蔵守となり赴任して八王子の横山に石清水八満宮を勧請し、八幡神社を創建しました。また、現在の町田市小野路町を領し、7代前の先祖である小野篁を祀って小野神社を創建しました。そして孝泰の子 義孝は天慶2年(939)横山牧が勅使牧となり、武蔵権守となって八王子の横山に館を構え、横山党の始祖 横山姓を最初に名乗った人物とされています。

小野氏については諸説があり、諸興と義孝は同一人物という説や、義孝は諸興の孫であるという説もあるが、はっきりしません。また小野諸興は小野氏の系図には入っていないのです。

横山義孝の孫で経兼(ツネカ)は『前九年の役』(1051~1062)で陸奥守 源頼義に従い先陣を切り、敵将 安部貞任の首をあげ『首懸けの儀』を担当しました。そして、その子孫達は、保元・平治の乱に参加し、また、一の谷・屋島・壇ノ浦の合戦に活躍、その子孫の三位権守 時重の妹は鎌倉幕府・侍所の所司を務めた梶原景時の母であり、時重の娘は侍所別当の和田義盛の妻となっております。横山党は建暦3年(1212)『和田義盛の乱』に加担したが、利なくことごとく北条氏によって討滅されてしまいました。

古沢の古澤氏(コザリ)の先祖は武蔵七党の横山党に属して康平5年(1062)の前九年の役では源頼義のもとで働きました。18代目の古澤隼人甚太郎資業は後北条に従い金山城(群馬県太田市の北)に立てこもり天正18年(1590)小田原落城の後、群馬県伊波郡宮古に土着したと伝えられています。古沢の小名は都古(ツク)です。普通に読めば『ミヤ』で同音です。群馬県宮古の人にも先祖は川崎出身であると話しているそうです。

古沢の福昌寺(新義真言宗・本尊は観音菩薩立像で丈は6寸ばかり行基の作という、開山は何時頃か不明)は稲城市坂浜の高勝寺の末寺なるも明治5年(1872)に廃寺となります。それまでは古澤一族の菩提寺で古い墓が多数残っていたようです。戒名も院号…大居士があり格式の高さを誇っています。



古沢に残る九郎明神社



小野義孝創建の小野路の小野神社

シリーズ
「麻生の歴史を探る」第105話

御岳山信仰 ～勸化と御師

小島 一也 (遺稿)

「新年、人々は子ノ神社に、戒翁寺に詣でる。昭和63年、道行く人の安全を願いお地藏様を建立、路傍の石仏は人々を見守る。念仏講、地神講、天王様…人々は信仰を通して結び付く。人々は自然や神仏を畏敬し、心豊かな暮らしを続ける。」これは早野郷土史刊行会が発行した「七つの池とともに」の一節ですが、まこと、私どもの祖先が辿った生活の原形で、そこには「信仰」という心の働きがありました。

石造物の信仰につきましては先に述べましたが(第80話～85話)、江戸時代も後期になると、この地方の村々には勸化聖(かんげひじり)とか御師(おし)と称する宗教者が訪れ、新しい信仰を布教し始めたといひます(川崎市史)。勸化とは、秋葉山勸化とか常安寺勸化がそれで、これは、主として寺社への寄進を願う僧と言われ、勸化の中には幕府の許可を得た「御免勸化」があり、これは聖と称せられ、全国有力寺社への寄進を求める幕府公認の宗教者でした。王禅寺村には弘化4年(1847)四国讃岐の善通寺の御免勸化が、また、安政4年(1858)には紀州高野の高室院なる勸化聖が訪れており(志村家文書)、これに対して王禅寺村では「御免勸化来村、古来より仕来りあり、当村銭200文…」と費用を負担した記録があるそうで、高室院勸化の際は、下麻生村まで迎えに出て、帰りは大榎村から保土ヶ谷宿まで見送ったとのことで、村々はこの御免勸化の扱いは悩んだのではないのでしょうか。

これに比べ御師は、主として山岳を聖地として、農耕にかかわる信仰の布教者で、農民の家に足を運び、自ら得た知見、体験、靈験を語り、信仰の講を組織するに至っています。昭和7年発行の柿生岡上村郷土史には、郷土の信仰、講社の項があり、それには江戸時代から今に残る信仰講中に、御嶽講、榛名講、大山講、秋葉講、成田講、伊勢講、富士講などの講の名が記されています。

上麻生の仲村、亀井には今でも在家(27家)による御嶽講が続けられています。昭和の中頃までは、講員全家が御嶽参詣(お山まいり)をし、太太(だいだい)と呼ぶ小神楽(かぐら)を神社に奉納、境内に集まる人々に、持参した米を振る舞って(餅投げ)感謝を表し、御師の坊(麻知屋まちや服部家)での憩いの一泊をしたものでしたが、今は講元と呼ぶ代表者(現在鈴木憲治氏)があり、毎年、代参人3名がお供米(今は



大口真神社(御嶽山山頂)

お金で随意)を集めて御嶽に奉納、御師の坊で神事を行い「代参祈祷神璽」を頂き、「大口真神」のお札を預かり一泊して帰ります(日帰りもあり)。

御嶽講とは、五穀豊穰、家内安全を願う信仰で、「大口真神(おおぐちまがみ)」の、大きな口の狼(黒)に似た姿のお札で知られ、この犬が作物を荒らす猪や獣を退治してくれることから名付けられました。この御嶽信仰の極め付きは、「太占(ふとまに)」と呼ぶ、農作物の作付の占いで、毎年1月3日、鹿の肩甲骨を焼き、ひびの割れ具合から、25の作物のその年の作柄を10段階で示すというもので、稲作5、大豆2、ジャガイモ9など、数字が高い程豊作とされ御嶽山御師による神事として行われています。

上麻生講中では、代参が終わると講元が佳日を選んで御嶽講を催し前述の「大口真神護符」をいただき、御神酒で宴を行い、次の代参人を抽選して講を閉じますが、毎年、上麻生講中に下されている大型の「大口真神護符」は、月読神社境内の熊野社の古祠に納められ、地内安全に感謝して、翌年、代参人が御嶽山にお返しするしきたりになっています。

なお、お山(御嶽山)の雪が解ける3月、御師の服部師は、今も、前記太占祭の神符(農作物作付けは消えたが)と「大難除神璽」のお札を携え、講元とともに各家を回らされており、それは親子3代にわたっています。

この原稿を書いた折も折(平成23年)「オオカミの護符」小倉美恵子著(新潮社)が世間の話題を呼びました。著者小倉さんは、宮前区土橋の生まれで幼い頃、毎年お祖父さんが蔵の扉に貼っていた「大口真神」のお札に思いを起こし、「今、私たちは、何か大切なものを置き忘れていたのでは…」と問うもので映画化もされますが、聞くと、市内の御嶽講は、上麻生だけではなく、宿河原、平、土橋、馬絹などにも残り、講はなくとも御師との繋がりは各地の在家にあるそうです。

参考資料:「七ツ池と共に(早野郷土史会)」「川崎市史」「柿生岡上村郷土史(柿生小学校)」「おおかみの護符(小倉美恵子)」「御嶽山レポート」



大口真神護符

シリーズ
教育の歩み 第2部

学級の誕生(5)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆教育の普及と国庫補助金◆

1830年代からの初等教育学校急増の背後には、イギリス政府が1833年に導入した、初等教育に対する国庫補助金の支給がありました。学校建設費の半額を、大蔵省補助金という形で、国が補助する仕組みが誕生したのです。なぜ教育費の補助が大蔵省から出てくるのか？ 当時のイギリスには、国立や公立の学校はありませんでした。高等教育を担うオックスフォードやケンブリッジを筆頭に、全てが民間の手に任せっぱなしになっていたのです。国家が民間の学校を全く掌握していないのですから、教育を担当する行政部局も必要がなかったのです。そのため、教育省や文部省といった教育を司る省庁ではなく、大蔵省からの補助金という摩訶不思議な形で、教育への国家のかかわりが開始されたのです。教育行政機構が未整備のまま、国家と学校とが補助金という細い糸で結びついたのでした。

しかし、大蔵省は学校の実態を把握していません。当然初等教育そのものに無知でした。こうした現実の下で、大蔵省と末端の学校を結び付けるには、既存の組織を利用する方法が最も現実的です。こうして、「国民協会」と「内外学校協会」は、国家が現場の学校を自ら掌握することが出来るようになるまで、中央から地方の学校へ、補助金を注ぎ込むパイプ役として、大きな役割を果たしたのです。1833年からの大蔵省による学校建設への補助金は、学校を作ろうという当事者の申請と、半額自己負担という要件を満たすと、二つの団体を通して交付されたのです。言い換えると、この2団体どちらかの傘下に入らないと学校建設補助金の申請は、事実上不可能だったのです。こうして、民間団体が作り上げた組織化のノウハウが、国家の教育行政の中に、入りこむきっかけが作られたのです。

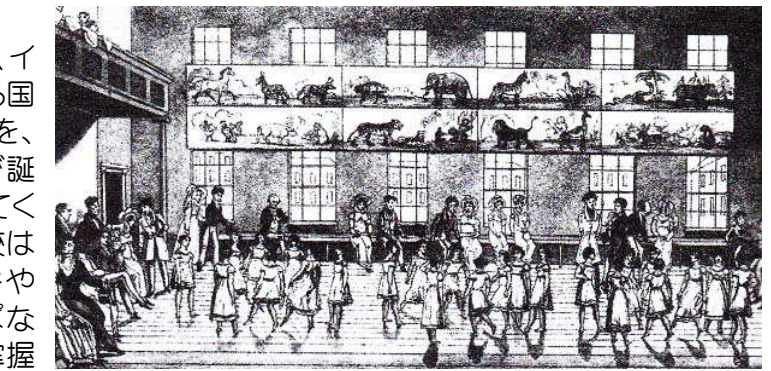
初等教育への国庫補助が実現した6年後、1839年に枢密院に教育委員会が設置されます。以後は、この委員会が補助金を管理し、二つの協会を通さずに、学校設置者が直接委員会と交渉することが可能となりました。こうして教育に対して責任を持つ、専門部局が初めて登場したのです。委員会は、学校現場が守らなければならない、各種の国家基準の制定を進めました。それは先ず、補助金を出している学校建築に関する各種基準を設けること、次いで、そのための監督体制を整備することの順に進められたのです。

1839年の誕生と同時に、枢密院教育委員会は、「補助金の申請は、直接学校建築計画者が教育委員会に申請する」ように、改めました。それだけではありません。委員会は、「補助金の用途についての査察も行う」旨を明言したのです。しかし一方では、建築基準を定める際、例えば生徒1人当たりの最低基準面積などについては、二つの協会が定めていた規定をそのまま使用しており、両団体が自分たちの学校建築のために、補助金を申請することも認めていました。その上、1840年に枢密院教育委員会が発表した、「学校建築計画覚書」は、二つの協会から推薦されたレイアウトについて説明を加え、その利用を勧めていました。そこでは、教授法としてモントリアル・システムが認められ、このシステムに基づく教場が、学校建築の基準として、推薦されていたのです。



子どもや女性たちが多いマッチ製造の零細工場

比べて物理的な力に劣る、女性や子どもの工場での雇用を一般化しました。成人男性に比べ、女性や子どもは低賃金で雇えることが、工場主にとっては何よりの魅力だったのです。今日で言う小学生年齢(6~12歳)の子どもたちも、大勢工場に雇われていたのです。こうした工場主たちの、あまりの無軌道ぶりに、社会的批判が高まり、下院に調査委員会が設けられ、その報告を下に、第一次工場法が制定されたのは、奇しくも初等教育への国庫補助金の支給が開始されたのと同様、1833年のことでした。



ニューラナーウの幼児学校

教育への国家の関与が始まったのですが、先ずは補助金の支給ルートや、学校建築基準の設定といった重要な点で、既存の民間団体に依存せざるを得なかったのです。ただ、教育委員会の「覚書」は、モントリアル・システムだけではなく、ギャラリー方式と呼ばれるようになる一斉授業方式と、それに伴う教場の配置をも、同時に推薦していたのです。ギャラリー方式を採用した学校は、まだ少なかったのですが、当時のイギリスでは、一斉授業方式をとる初等学校も生まれつつあったのです。働きに出るために、幼児を育てる時間をとることが出来ない母親のための、幼児学校(今日の保育園にあたります)が、まさにそうでした。

1840年代のイギリスと言えば、世界のトップを切って産業革命をやり遂げ、機械制大工場の普及期にあったことが知られています。そうした機械制工場の普及は、成人男性に比べて、女性や子どもは低賃金で雇えることが、工場主にとっては何よりの魅力だったのです。今日で言う小学生年齢(6~12歳)の子どもたちも、大勢工場に雇われていたのです。こうした工場主たちの、あまりの無軌道ぶりに、社会的批判が高まり、下院に調査委員会が設けられ、その報告を下に、第一次工場法が制定されたのは、奇しくも初等教育への国庫補助金の支給が開始されたのと同様、1833年のことでした。

(続く)

令和元年度 柿生郷土史料館友の会 法人会員紹介 46 法人(順不同・敬称略)

本年度の柿生郷土史料館「友の会」の法人会員の皆様をご紹介いたします。
当館の活動を支えていただき、深く感謝いたします。(令和元年6月末日現在)

- ★王禅寺 ★琴平神社 ★常安寺 ★月読神社
- ★(有)青戸建材 ★(学)川崎青葉幼稚園(麻生学園) ★(有)アクティブ ★(有)麻生自動車 ★(株)朝日ホーム
- ★(株)飛鳥典禮 ★(有)荒川電気工事 ★(有)イルフェジュール(洋菓子) ★(株)エムケープリント
- ★(有)柿生恒産 ★柿生保育園 ★(学)柿の実幼稚園 ★(有)鴨志田産業(フラワーショップまきば)
- ★川崎信用金庫柿生支店 ★(株)観財 ★(株)北島工務店 ★(有)広東商事 ★(有)孝友商事
- ★サイトー農芸 ★(有)白百合商事 ★(福)鈴保福祉会(柿生アルナ園) ★(有)ステップオン
- ★誠和産業(株) ★セレサ川崎柿生支店 ★(株)タカミ ★(医)晃進会たま日吉台病院
- ★(株)ティエムコーポレーション ★(学)桐光学園 ★(株)とん鈴 ★長瀬土地家屋調査事務所
- ★奈良工業 ★中華料理 福永 ★(株)富士建材 ★プライマリー(株) ★喫茶ベル ★(有)法友(不動産)
- ★(有)まつや(そば) ★(有)山義産業 ★(有)ユーコーポレーション ★リック設計企画(有)
- ★美容室 Lucir(ルシル) ★小料理わかば ★(学)和光学園(和光大学)

柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

8月 3・10・17・24日(毎土曜日)

9月 8・15・22・29日(毎日曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時

サマースクール

ステンドグラス どうやって作る?

と一緒にステンドグラスを作ってみませんか。お好きなガラスを選んでオリジナル作品が作れます。

日時 令和元年8月24日(土) 午後1時～3時

会場 柿生中学校 金工・木工室

講師 栗山 美咲先生(王禅寺在住)

対象 小学校3年生 ～ 中学校3年生 先着 40名まで

参加費 1名につき500円 (材料費等の実費 当日徴収)

持ち物 上履き、飲み物(ペットボトル可)、軍手、雑巾、エプロン

申し込み 氏名、学年、学校名、連絡先電話番号とFAX番号または

メールアドレスを記載して、下記までファックスまたはメールで申し込んで下さい。

なお、メールで申し込まれた方は、PCメールの受信拒否は解除願います。

申し込み先 小林 044-989-0757(FAX専用) zabi@za.wakwak.com

締め切り 7月31日(水)

問い合わせ 柿生郷土史料館企画担当 小林基男 080-5513-5154 または 044-989-0622
メールも可 zabi@za.wakwak.com



第16回 特別企画展

「くらしの窓」に見る柿生地区の今昔 その4
～ 平成前期 ～

昭和30年創刊の地域のミニコミ誌「くらしの窓」が捉えてきた地域の姿を紹介してまいりましたが、今回は昭和の終わりから、平成前期を中心に、人口急増期の地元の変貌の過程を紹介できればと考えています。

期間 3月3日(日) ～ 9月15日(日) 会場 柿生郷土史料館特別展示室